

■授業の目的

中学校社会科歴史的分野の世界史に関わる内容あるいは高等学校の世界史A・Bの内容を指導することを前提に、歴史的な見方・考え方について具体的な歴史事象を通して理解することを目的とする。

■授業の到達目標

世界史にかかわる事象を教える際の歴史的な見方・考え方を理解し、世界史学習の意義を自分なりに表現できることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 世界史教育の現在
世界史教育の変遷と現在の実施状況、担当教員や生徒の意識からみた課題を考察する。
- 2 世界史と時間
暦の紀元や時代区分などを例に、世界史における時間認識について理解する。
- 3 世界史と空間
地理的視点を取り入れた世界史における空間認識について理解する。
- 4 学習指導要領と世界史
現行学習指導要領における世界史の枠組みについて理解する。
- 5 日本と世界の諸地域の交流
日本と世界の諸地域の接触・交流を身近な事例を通して理解する。
- 6 古代文明の成立
文明が限られた地域から起こった背景や、古代文明の現代への影響について考察する。
- 7 ヨーロッパ文明の源流
古代ギリシア・ローマをヨーロッパ文明の源流と考える歴史観の背景について考察する。
- 8 古代インド文明と宗教
前近代世界における宗教の役割を、インド文明の盛衰の中で考察する。
- 9 中国諸王朝の盛衰と対外関係
中国の諸王朝の興亡とその国際関係の見方・考え方について理解する。
- 10 イスラーム文明の成立
イスラーム文明の勃興の過程を、諸地域の遺産の継承という視点から理解する。
- 11 イスラーム世界の多面性
イスラーム世界の歴史的事象の多面的なとらえ方について考察する。
- 12 モンゴル帝国の役割
モンゴル帝国が果たした世界史上の役割について理解する。
- 13 13世紀の世界
各地の武人層に注目して同時代を横断的にとらえる見方・考え方を理解する。
- 14 世界史の中の「戦国時代」
日本の「戦国時代」の動きを世界の広がりの中で考察する。
- 15 前期の学修の総括
学期試験とフィードバックを通じて、前期の学修を振り返り、その到達度を評価する。

■授業の方法

講義だけでなく、ワークや発表などの演習を取り入れて授業を進める。世界史学習の基本的事項の理解にとどまらず、世界史を教える立場で考える場面を多く設定する。

■予習・復習

予習：授業で扱う単元内容を、教科書を事前に読んで確認・整理する。

復習：毎回の授業内容を整理し、プリントに記入する。

■成績評価の方法

学期試験60%、予習・復習を含む課題や演習などの授業中の取組状況を40%として、それらを総合的に評価する。

■教科書・参考書

教科書：高等学校教科書「世界史B」、中学校教科書「新しい歴史」（東京書籍）

参考書：授業中に指示する。

■関連する科目

「社会科・地理歴史科教育法」「国際政治史」「国際関係論」「日本外国史」などの修得が望ましい。